



2026 年度 姉妹都市ダボ青少年派遣事業 (7.26-8.6) 帰国報告会 『コアラミーティング』



日時：2026 年 8 月 23 日(日)
13:30~16:00

場所：生涯学習センター 201号室



プログラム



1. 開会 13:30
2. MIEA 会長挨拶
3. 来賓挨拶
4. 帰国報告(前半)

※派遣全体の行程報告：副団長 河合玲菜

	派遣生	学校	学年	発表テーマ
1	福地 小春	関高	1	オーストラリアの人々の人柄
2	今井 愛椰	西中	2	ホームステイ先で驚いたこと・楽しかったこと
3	河路 悠汰	西中	2	オーストラリア・ダボで過ごした日々
4	工藤 結奈	加茂農林高	1	ホストファミリーとの食事
5	鈴木 遥花	東中	2	美濃加茂とダボの共通点

5. Tea Time 交流 オーストラリアのお菓子試食



6. 帰国報告(後半)

	派遣生	学校	学年	発表テーマ
1	山田 ゆり	双葉	3	文化の違い
2	坂井 馴	誠信高	3	私が出会ったホストファミリー
3	安藤 彩	東中	2	言葉の壁を越えて広がる世界
4	今次 花鈴	関高	2	オーストラリア・日本の違い～災害・防災
5	山口 導人	美濃加茂中	3	笑いあり、まさかの事件あり!? 2週間の思い出の記録

8. ご講評
9. 保護者代表コメント
10. 団長挨拶：団長 吉本梨乃
11. 閉会 16:00



引 率

団長：吉本梨乃(太田小教諭) 副団長：河合玲菜(看護師)

オーストラリアの人々の人柄

福知 小春

ダボへ行く前のイメージ・フレンドリー・とても明るい・物事をはっきりいうから少し怖そう
実際に行ってみて出会ったひとたちを紹介✨



Dad:Mr.Chris
Mum:Ms.Sarah
Bro:William
Sis:Charlotte
Bro:Harry
Bro:Sam

Chrisはほんとに優しくて常に気にかけてくれたり彼の考え方がとても素敵だった。私が帰りたくなくて泣いてた時に2人で夜星をみに散歩に連れてってくれた。その時にポジティブな言葉をずっとかけてくれた。Sarahは最後の2日しか会えなかったけど電話した時に泣いてくれて初めてあった時はハグしてくれた。日本の文化にとても興味をもって宗教入ってる？とか聞かれた。CharlotteとHarryはフレンドリーでユーモアがある人だった。2人はずっとふざけて笑わせてくれたし食事の時も2人が基本話してた。最初不安だったけど分かりやすい言い回しで話してくれて優しくった。Samは1番優しい人だった。イメージとは違う静かめなタイプであり話すほうじゃないけど毎日何したい？って聞いてくれてドアも開けてくれるスーツケースも持ってくれるしずっと親切で素敵の人だった。

St.Johns の子たち



ペアはSophieだったけどいろんな子が話しかけてくれた。2時間目の後のショートブレイクでみんなお菓子あげあって取り合いになって投げた。音楽の授業を左の4人と一緒に受けて男の子たちが先生にずっとふざけて先生に外に追い出されてもみんな笑ってたしほんとに明るかった。



二日目はペアはMakaylah(ハグしてくれてる子)だった。右のMinudiはほんとに明るくてずっと喋ってたしリアクションが大きくて面白かった。左から2番目のlabaaは鶏が嫌いで大勢周りにいたけど怖くて叫んでいた。Makaylahは気にかけてくれてノート取る時とか分からない単語を説明してくれたし写す？って見せてくれた。最後みんな泣いてくれてとても優しい人たちだった。



この子達はペアとかじゃなかったけど休み時間にhiってハグしてくれて一緒に散歩しよって仲良くなってくれた。たった10分くらいしか話す時間はなかったけど今でも毎日連絡とってるくらい仲良くなれた。真ん中のAbbyは最後学校を帰る時にあって私が泣いたらハグしてくれた。



この子達も帰るギリギリにhiって話しかけてくれてなんで泣いてるの？！って慰めてくれた初対面でもとても優しくフレンドリーに話しかけてくれて嬉しかった

学校では他にもたくさんの人が手振ってくれたりこんにちは！って話しかけてくれてみんな素敵の人だった。私が感じた学校のみんなのイメージはみんな自由で学校を楽しんでいた。

実際に行ってみて感じたオーストラリアの人達の人柄

初対面でも元々知り合いだったかのように接してくれてまさにフレンドリーだった。

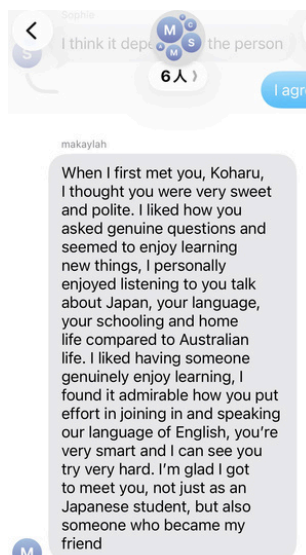
明るい上に優しいしみんな目があったらスマイルしてくれた。日本に興味があるひとも多いと思った。学校で出会った子たちは物事をはっきり言うけど全く怖くないし自分をもってる子が多くてとてもかっこよかった。日本人よりも沢山話す。ここに紹介した人以外にも引率のリベッカさんやアクセシヨップの店員さんも一緒に商品探してくれてとても優しい人ばかりだった

この派遣を活かして

私はこの派遣でダボの方にたくさんの優しさや愛情と思い出をもらいました。日本と違う部分もちろんありました。1番この派遣で感じたのは美濃加茂市は住みやすい市でダボ市は生きやすい市ということです。全部主観にはなってしまうけど日本の冷笑文化はないし、今回の派遣で関わってくれた全ての人が親切で優しくて学校も最初は不安だったけど行ったら不安なんてなくみんなが元々友達だったかのように接してくれてとても生きやすい場所だと思いました。美濃加茂市もダボ市のような生きやすい市にするために人々がもっと世界を広げないといけないと思います。国際的な活動に関わり私の人生は変わりました。なのでもっと色んな人が国際交流に興味を持つことが大切だと思います。まずは自分がこれから国際的な活動に積極的に参加し輪を広げていきたいです。このダボで出会えた大切な人たちとこれからもずっと関わってこの派遣を絶対忘れません。ダボの人達の人柄を日本人も取り入れればより良い市になると思うのでより多くの人が実際にダボに行き若い世代がこの関係を繋いで行くのが大切だと思います。コアラミーティングや国際交流の活動の際に実際に行った身としてダボの良さを沢山話してみんなに行ってみたいと思ってもらいたいです。ホストファミリーや学校のみんなはどんな人なんだろうと不安に感じる人がこれをよんで安心して行ってもらえることに繋がると嬉しいです。

ダボでできた友達に日本人はどんな人だと思うか聞いてみた !!

- ・ so smart,amazing,quiet,kind and cute
- ・ your guys were so nice and cool when u were in Dubbo



訳:初めて会った時、小春はとても優しくて礼儀正しいと思った。真摯な質問をされ、新しいことを学ぶことを楽しんでいる様子が好きだった。また、個人的に、あなたが日本やご自身の言語、学業、家庭生活について、オーストラリアでの生活と比較して語るのを聞くのも楽しかったです。学びを心から楽しんでることが好きでした。英語という私たちの言語に参加し、話すために努力されている姿は立派です。とても賢く、一生懸命努力されているのが見て取ることができます。会えて本当に嬉しく思う。日本人の学生としてだけでなく、友人になってくれた人でもあります。

～ダボ滞在を終えてこれからの自分～

福知小春



今回の研修で、国がちがっても仲良くなることの素晴しさを学べたし、国境を越えて人々となかよくなれたことは自分にとってとても幸せだったから、この経験を活かして、沢山の国際交流のことに参加したいです

まずは言語をもっと極めないと、と思った。ダボ研修で英語力のなさを痛感した。これからもっと英語の勉強をして話せるようになりたいです。

自分でお金をためてオーストラリアのダボに住めるように方法を調べていきたいと思っています。今回こんな貴重な体験で出会えたダボの人との関係をずっとつづけていきたい。今も連絡をとりあっていますが、これからもずっととっていききたいです。



オーストラリア派遣で学んだこと

今井 愛椰



農場で馬に餌をあげる体験



ホストシスターたちとの交流

1. ホストファミリーとの生活

- ・ホストファミリーはとても優しく、温かい家族でした。
- ・ホストシスターたちとゲームやスモア作りをしたり、一緒に遊んだりしました。
- ・英語が分からない時も、身振り手振りで教えてくれました。

2. オーストラリアで驚いたこと

- ・とても広い農場や庭があり、敷地内に川もありました。
- ・野生のカンガルーを見ることができました。
- ・日本ではなかなかできない、馬とのふれあひも体験しました。

3. 楽しかったこと

- ・ホストシスターたちとゲームやトランポリン、ジップラインで遊びました。
- ・スモアを作ったり、買い物に行ったりして楽しく過ごしました。
- ・言葉が違って、一緒に笑って楽しめたことが嬉

4. これから活かしていきたいこと

- ・英語が完璧でなくても、「伝えたい」という気持ちが大切だと学びました。
- ・分からない時は聞き返したり、身振り手振りを使ったりすることで会話ができました。
- ・これからはもっと英語を勉強し、自分の気持ちを

～ダボ派遣を終えて、これからの自分～

オーストラリア研修を通して、英語が完璧に話せなくても、相手と話そうとする気持ちが大切だと学びました。一方で、自分の気持ちを英語でうまく伝えられないこともあり、もっと英語を勉強したいと思いました。これからは間違いを恐れず、積極的に英語を話すことを意識したいです。そして、今回の研修で身につけた「挑戦する気持ち」を大切に、将来また海外に行って、たくさんの人と交流できるようになりたいです。

ダボにホームステイして学んだこと

河路 悠汰

1. 今回の目標

今回の留学での目標は、「たとえ翻訳アプリを使ってでも自分から積極的に人と関わり、現地の人々がどのような考え方を持っているのかを理解すること」でした。語学力だけに頼るのではなく、様々な手段を使ってでもコミュニケーションをとろうとする姿勢を大切に、自分とは異なる文化や価値観に直接触れることを目指しました。

2. 目標に沿って努力したこと

目標を達成するため、言葉の壁を恐れず自分から会話のきっかけを作るよう努めました。留学中に現地のセント・ジョンズ校(St John's College)へ通った際には、翻訳アプリも活用しながら積極的に現地の生徒に話しかけました。ブーメランについての話を聞いたり、自分が好きな日本のアニメの話をしたりして、共通の話題を見つけながらお互いの文化を伝え合えるよう工夫しました。完璧な英語でなくても、伝えようとする意欲を見せることで打ち解けることができました。

3. 体験したことと、それを通じて感じたこと

ホストファミリーと1日中過ごした時間は全体で2日間ありました。

1日目はみんなで映画館へ行って映画を観て、2日目にはホストファミリーのおばあちゃんの牧場を見学させてもらいました。広大な牧場の風景に感動すると同時に、生活の中で日本との考え方の違いを実感する場面もありました。

特に印象的だったのは、食事に対する考え方です。日本では食べきれなかった料理は冷蔵庫で保存して翌日に食べることが多いですが、ホストファミリーは残ったものをその場で処分していました。最初は驚きましたが、衛生観念や暮らし方の違いによるものだと分かり、自分の「当たり前」とは異なる価値観やライフスタイルが存在することを肌で感じました。

4. 今後どのように生かしていくか

今回の体験を通じて、国籍や言語が違って、最も大切なのは「伝えたい・相手を知りたい」という気持ちであると学びました。また、自分とは違う考え方に出会ったときに、否定するのではなく「そういう捉え方もあるのだ」と受け入れる柔軟さを身につけることができました。

今後は英語の学習を継続してよりスムーズな対話を目指すとともに、学校生活や社会に出てからも、自分の固定観念にとらわれず、さまざまなバックグラウンドを持つ人の意見や考え方を尊重して関わっていきたいです。



～ダボ滞在を終えて、これからの自分～ 河路悠汰

十二日間のオーストラリア・ダボでのホームステイ研修を終え、私は日本にいる時とは少し違う自分になったような気がしています。この作文では、研修の中で心に残った出来事を振り返りながら、これから頑張っていきたいことを書きたいと思います。

ダボにいた初日、ホストブラザーのオリーが私の名前を紙に書いて出迎えてくれました。漢字が少し間違っていました、それでも私のために準備してくれたことがとても嬉しかったのを覚えています。この出会いから、私のホームステイ生活が始まりました。

現地の学校、セントジョンズでは、ジェームズという友達ことができました。最初は何を話しているのか分からないことも多く、戸惑うことばかりでしたが、ロボットの授業で一緒に組み立てをしたり、ブーメランに絵を描いたりする中で、少しずつ心が通じ合うようになっていきました。特に、ダボを離れる日に、ジェームズがたくさんのプレゼントを用意してくれていたことは、今でも忘れられません。言葉がすべて通じなくても、気持ちは伝わるのだと知りました。

ホストファミリーとの時間も、かけがえのないものになりました。ホストマザーのケイラは私を買い物に連れて行ってくれたり、ホストファザーのペンは空港で温かい食べ物を買ってきてくれたりと、家族のように接してくれました。オリーのおばあちゃんの牧場で動物たちと触れ合ったことや、焚き火を囲んで過ごした夜、みんなで映画を見に行ったこと、ミニゴルフで真剣に勝負したこと、どれも私にとって大切な思い出です。

もちろん、楽しいことばかりではありませんでした。英語が分からずに困ったことや、支払いの方法に戸惑ったこと、見慣れない食べ物に置いたこともありました。しかし、そうした戸惑いや失敗も含めて、今の自分を作る大切な経験になったと感じています。

この十二日間を通して、私は「分からなくても飛び込んでみること」の大切さを学びました。最初は言葉が通じず不安でしたが、勇気を出して話しかけたり、一緒に行動したりすることで、友達ができ、家族のようなつながりができました。これからは、日本にいても分からないことや初めてのことを恐れずに挑戦していきたいと思います。

また、オリーのバンド演奏を見て、自分もギターを始めてみたいという新しい夢もできました。まだ楽器は買えていませんが、この気持ちを大切にして、これからの生活の中で少しずつ挑戦していきたいです。

そして何より、これからは英語をもっと勉強し、次にダボのみんなと会う時には、今度こそ自分の気持ちをしっかりと言葉で伝えられるようにになりたいと思います。ジェームズやオリー、ケイラ、ベン、そしてダボで出会った全ての人への感謝を忘れず、この経験を自分の成長につなげていきます。

ダボでの十二日間は短いようで、私の心の中には一生忘れられない思い出として残りました。この経験を胸に、これからの自分をさらに成長させていきたいです。

ホストファミリーとの食事🇺🇸

工藤結奈

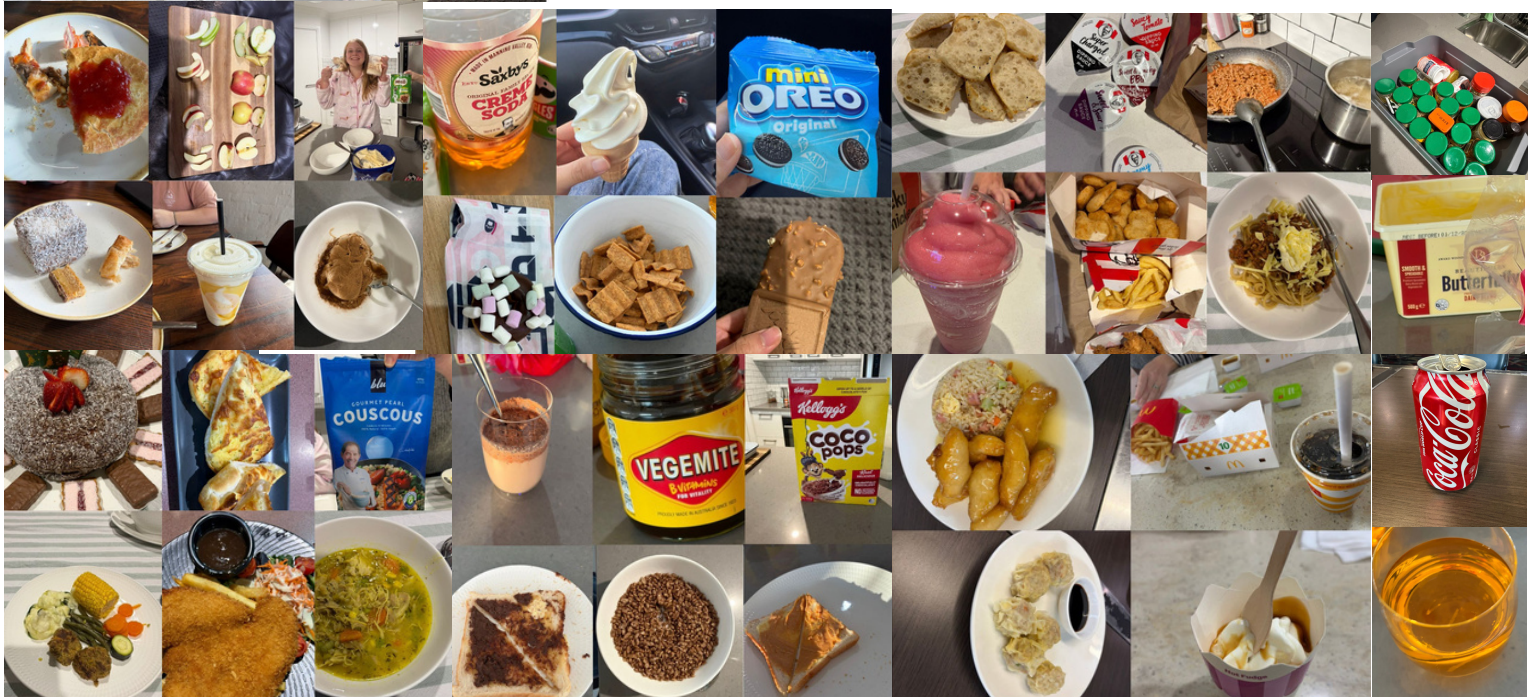
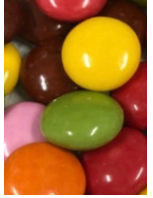
ホストファミリー

Host father: David Duffy
Host mother: Amanda Duffy
Host brother: Hudson Duffy
Host sister: Lottie Duffy

夕食はホストマザーが2回、ホストファザーが1回作ってくれました。
食へに行くことも多かったです。
下の写真は全てホストファミリーと一緒に食べたお菓子や食事です。



ホストファミリーの飼い猫
Luna



MILOと牛乳を混ぜたもの

飲み物の中ではMILOが1番美味しかったです。
朝食で4回も飲ませてもらいました。
お土産にもミニサイズを買って帰りました！
上のチョコの部分をスプーンで救って食べてから飲むのが面白くて楽しかったです。
アイスに混ぜたMILOもとても美味しかったです。



ホストマザーのチキンスープ

ホストマザーが作ってくれたチキンスープが1番美味しかったです！
白のぷよぷよした小さなものが入っていて、不思議に思い聞いてみると、パスタの小さなもののようなのだとパッケージを見せてくれました。

ホストブラザーとホストファザーはラーメンを食べるようなどんぶりで食べていて驚きました。



ホストファザーのミートパスタ

ホストファザーがミートパスタを作ってくれました！
サワークリームとチーズを上に乗せてくれてとても美味しかったです。口に合わないかもしれないからと少量で味見させてくれました。

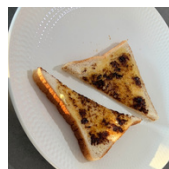


ラズベリーシェイク

ホストブラザーがケンタッキーでバイトしていたので夕飯に食べに行きました！
ホストシスターのおすすめのラズベリーシェイクを飲みました。
とても吸いにくくてスプーンですくって食べたくなったので飲み物かと聞いてしまいました。
ラズベリーは好きなので美味しかったです。

ベジマイト

去年行った人達から、まずいと聞いていたベジマイトを食べてみました。
ホストマザーがたくさんバターを塗ってくれていたのが普通でした。少ししょっぱかったです。
オーストラリアのたくさんの人から、ベジマイトは食べた？と聞かれたので有名なんだと感じました。
ホストファザーは苦手だと言っていました。



日本での食事と比べてみて、たくさんの違いもありました。
が、似た部分もあり楽しかったです。
1番感じた違いは、白米がないことと箸を使わないことでした。
マクドナルドとケンタッキーは慣れた味なのでダボでも安心感を感じることが出来ました。

貴重な経験をありがとうございました。

私は12日間の派遣を終えて、海外が思っていたよりも大きな違いだらけではないと知りました。今まで一度も海外に行ったことがなかったので、外国人と聞くと、日本人と全然違うと思っていました。

よく食べることや、食事のあいさつがないこと、言語など違うこともたくさんありましたが、同じように生活しているのを見て、他の国の人はわからないけど、オーストラリアの人は日本人とそこまで変わらないと感じ、行くことへのハードルが下がりました。長時間の飛行機が、お金、英語の会話など1人で予約して行くのはとても大変だろうなと団長さんや副団長さんを見て感じましたが、成人してからまたオーストラリアに行ってみたいです。

また行きたいと感じた時に、お金と英語力が足りないと思ったので、これからの決意では、バイト代を貯金すること、英語を勉強することを頑張りたいです。今月からバイトを始めることができるので、スマホ代、車の免許のための貯金を除いたお金をできるだけ貯金しようと思います。私は好きな教科が英語だったので、中学の範囲の英語は頑張っていました、テストはできても、会話をするのがほとんどできませんでした。英語でとっさに文章にできないことや、単語がでてこないこともそうですが、それ以上に相手がなにを言っているのか聞きとることが難しかったです。中学1年生で習うような文章が、単語しか話すことができなかったのに1人でも行くことができるように、リスニングとスピーキング、できるだけたくさんの単語を覚えることを頑張りたいです。

ホームステイしていた時には、できるかぎりたくさんのかたちを経験しないともったいないと思っていたので、・・・したい?・・・する?と聞かれるたびに、毎回、Yes!と言っていました。鳥や馬など動物に触れることや、運動することは苦手ですが、もったいないと思い全てにYesと言っていたら楽しい思い出がたくさんできました。エミューの赤ちゃんやカンガルーの赤ちゃんをだっこしたことや、馬に触れたこと、ボウリングやビリヤード、ネットボールなどたくさんの初めての経験をすることができたので、これからも積極的に挑戦していこうと思います。

これからは、貯金すること、英語のリスニングとスピーキング、積極的に挑戦することを頑張ります。

美濃加茂とダボの共通点

鈴木 遥花

(1) 環境

- 川が身近にある
木曾川とMacquarie River
- 緑が多い
清流里山公園とVictoria Park

(2) 歴史

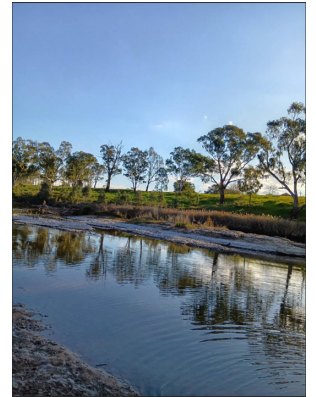
- 歴史を感じられる場所が残っている
中山道太田宿とDubbo Gaol

(3) 人々との関わり

- おもてなし
お土産をくれたり、行きたいところや食べたいものを聞いてくれたりした。
- 友達の繋がり
言語が異なっても美濃加茂と全く同じように友達になれる。SNSを使った交流でも同じ。

(4) 生活・文化

- 音楽、キャラクター、アイテムなど互いに知っているものが多い
サンリオ、ディズニー、スクイーズ、映画の主題歌などが共通の話題になった。
- 車での移動が主
シドニーでは電車で移動したが、ダボでは全て車で移動した。
- 互いに姉妹都市として繋がっている
ダボロードと逍遙園



(まとめ)

環境・歴史から

改めて自分の目で見ることでできた共通点がたくさんあった。
→美濃加茂とダボを繋げている共通点を大切にしていきたい。

生活・文化・人との関わりから

興味のあるものや好きなもの、考えることや温かい思いは住んでいる場所が違っても同じだった。
→国籍は関係なく仲良くしていきたいし、美濃加茂にもそれが広がっていくといい。

～ダボ滞在を終えて、これからの自分～

鈴木 遥花

派遣の前、私は自分の「思いを人に伝えるのが苦手」という課題を克服しようと、学校生活の中で「自分から、積極的に」を意識して動いてきました。それでも、やはりしりごみしてしまったりと、元々の苦手な部分は完全には消えませんでした。

いろいろな思いを抱えた中、この派遣に参加し、終えた後では「とにかく積極的に」と思っていた私の考えは変わっていました。なぜなら、「積極性は大切だけれど、自分自身があるのままでいることも大切だ」と気が付いたからです。派遣団の初めの方の集まりでは、遠慮してしまい、ただ周りを眺めているだけだったこともありました。けれど、派遣の最中では、「少しでも多く」と話をしているうちに、派遣団の中や体験を行った学校、ホストファミリーの方などの中にたくさんの友達ができました。その友達は、私が積極的に行動しようとしていたから、仲良くしてくれたわけではありません。きっと、私が自分そのものを隠さなかったから、気が合いそうだと思ってくれたのだと思います。相手に思いを完璧には伝えられない私でも、海外で様々な人と関わることができました。むしろ、積極性を出しきれなかったことで、話の合う友達がたくさんできたように感じるのです。

私はたしかに、自分から動ける人になりたいと思っていました。それは今でも同じです。しかし、無理に積極性を出さなくても良いと、自分の課題を克服しきらなくても良いと思えたのは、この派遣で私が一歩成長したからだと思います。

これからは、「自分は今のままだでも大丈夫」ということを頭に置きながら、積極性を少しずつ高めていきたいと思います。そして、海外で初めて会う人達と仲良くなれたことを自信につなげ、日本でも、私自身の学校でも、「積極的に動く努力」を大切にしていきたいです。